

第 1 3 7 回 (令和6年7月) 情報処理技能検定試験(表計算) 4 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は20分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

販売先名	商品名	売価	販売数
新栄堂	A	2,980	37
泉商店	B	1,960	43
マルヨ	C	1,470	69
山田屋	D	2,310	42
森商事	E	1,650	38
あおき	F	2,740	26
原総業	G	1,290	95
星食品	H	2,430	54

<処理条件>

- <出力形式>のような請求額一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 販売額=売価×販売数
消費税=販売額×10%
請求額=販売額+消費税
- 合計・平均(整数未満四捨五入の表示)を求めなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式>

請 求 額 一 覧 表

販売先名	商品名	売価	販売数	販売額	消費税	請求額
合 計	——	——				
平 均	——	——				

第 1 3 7 回 (令和6年7月) 情報処理技能検定試験(表計算) 3 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

コード	委託先名	委託数	販売数
101	新栄百貨店	659	593
102	秋山商事	356	329
103	光スーパー	447	416
104	富士商会	705	645
105	生活ストア	431	412
106	東海物産	560	534
107	さわやか堂	557	549
108	アサヒヤ	634	578
109	久保田総業	378	367

<乗率表>

委託数	乗率
560 以上	2.9%
それ以外	2.4%

<処理条件>

- <出力形式>のような販売委託料一覧表を作成しなさい。（—— の部分は空白とする）
- 販売額=2,360×販売数
手数料=販売額×9.8%（整数未満切り捨て）
- 乗率は<乗率表>を参照し、求めなさい。（%の小数第1位までの表示とする）
奨励金=販売額×乗率（整数未満切り上げ）
委託料=手数料+奨励金
- 合計・平均（整数未満四捨五入の表示）・最小を求めなさい。
- 委託料の少ない順に並べ替えなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）

<出力形式>

販 売 委 託 料 一 覧 表

コード	委託先名	委託数	販売数	販売額	手数料	乗率	奨励金	委託料

(途 中 省 略)

——	合 計					——		
——	平 均					——		
——	最 小					——		

第137回 (令和6年7月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準2級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

番号	会員名	基本料金	時間	OP
101	青島 哲夫	16,800	7	3
102	安田 あき	12,700	6	1
103	久保田 正	18,100	5	4
104	森 美恵子	17,200	6	4
105	井上 勝利	14,900	9	2
106	松山 千明	19,400	5	3
107	山田 政治	15,600	8	1
108	鈴川 広江	13,500	9	2

<OP料金テーブル>

OP	OP料金
1	2,560
2	2,170
3	1,850
4	1,490

<処理条件>

- <出力形式1>のような貸会議室料金計算表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 超過料金=基本料金÷5×(時間-5)×0.6
- OP料金は<OP料金テーブル>を表検索しなさい。
- 割引額=(基本料金+超過料金+OP料金)×4.8% (整数未満切り捨て)
請求額=基本料金+超過料金+OP料金-割引額
ポイント=請求額×1.2% (整数未満切り上げ)
- 時間が8以上または請求額が19,000以下に“A”の判定をしなさい。
- 合計を求めなさい。
- 基本料金の昇順に並べ替えなさい。
- 貸会議室料金計算表のOP料金のセル証明をしなさい。
- <出力形式2>のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- 貸会議室料金計算表の請求額の値を会員名別の縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“請求額の比較”とし、凡例は“請求額”とする。

<出力形式1>

貸 会 議 室 料 金 計 算 表

番号	会員名	基本料金	時間	超過料金	OP	OP料金	割引額	請求額	ポイント	判定
(途 中 省 略)										
——	合 計				——					——

<出力形式2>

	基本料金	割引額	請求額
平 均			
最 大			
最 小			

会C O	会社名	製C O	製品名	加工単価	依頼数	完成数	完成指数	加工賃	割増金	支払額	評価
(途 中 省 略)											
—	合 計	—	—	—		—					—

第 1 3 7 回 (令和 6 年 7 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準 1 級問題

<問 題>

1. 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
2. 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
3. データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
4. 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

商CO	商品名	仕入数	単価
11	商品E	1,894	1,164
12	商品F	1,923	1,276
13	商品G	1,835	1,219
14	商品H	1,976	1,352

※<出力形式1>で使用する。

委CO	商CO	販売数
101	11	610
101	12	628
101	13	659
101	14	540
102	11	590
102	12	583
102	13	571
102	14	715
103	11	672
103	12	702
103	13	597
103	14	682

※<出力形式2>で使用する。

<仕入値引の計算式>

仕入額	仕入値引
230 万以上	仕入額×4.7%
それ以外	仕入額×3.9%

※仕入値引は整数未満切り捨て。

<委託先テーブル>

委CO	委託先名
101	協栄商事
102	井上総業
103	大川企画

<標準販売数テーブル>

標準販売数	650
-------	-----

<処理条件>

1. <出力形式1>のような定価計算表を作成しなさい。(――の部分には空白とする)
2. 仕入額＝単価×仕入数
3. 仕入値引は<仕入値引の計算式>を参照し、求めなさい。
定価＝(仕入額－仕入値引)÷仕入数×1.25 (10 位未満切り捨て)
4. 合計を求めなさい。
5. <出力形式2>のような委託販売手数料一覧表を作成しなさい。(――の部分には空白とする)
6. 委託先名、商品名はそれぞれ<委託先テーブル>、定価計算表を表検索しなさい。
7. 売価＝定価×0.9 ※定価は定価計算表を参照する。
販売額＝売価×販売数
手数料＝販売額×8.4% (整数未満切り捨て)
達成指数＝販売数÷標準販売数×100 (整数未満切り上げ) ※標準販売数は<標準販売数テーブル>を絶対参照する。
8. 手数料が 65,000 以下または達成指数が 90 以下に“努力”の評価をしなさい。
9. 合計を求めなさい。
10. 達成指数の昇順に並べ替えなさい。
11. 委託販売手数料一覧表を基に<出力形式3>のような処理をしなさい。
12. 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
13. <出力形式3>の手数料を商品名別の縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“商品別の比較”とし、凡例は“手数料”とする。

<出力形式1>

定 価 計 算 表						
商CO	商品名	仕入数	単価	仕入額	仕入値引	定価
(途 中 省 略)						
――	合 計		――			――

<出力形式2>

委 託 販 売 手 数 料 一 覧 表									
委CO	委託先名	商CO	商品名	売価	販売数	販売額	手数料	達成指数	評価
(途 中 省 略)									
――	合 計	――	――	――				――	――

<出力形式3>

商品別集計表		
商品名	販売数	手数料
商品E		
商品F		
商品G		
商品H		

第 1 3 7 回 (令和6年7月) 情報処理技能検定試験(表計算) 1 級問題

<問題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

社C O	部C O	作業数	完成数
101B	11	630	579
102A	11	607	580
103B	11	756	692
104C	11	690	648
101B	12	694	651
102A	12	615	589
103B	12	610	576
104C	12	763	710
101B	13	620	584
102A	13	681	647
103B	13	635	601
104C	13	802	758
101B	14	640	590
102A	14	724	694
103B	14	795	750
104C	14	609	581

<社員テーブル>

社C O	社員名
101B	加藤 直美
102A	中村 勇樹
103B	大西 愛子
104C	久保田 哲

<部品テーブル>

部C O	部品	単価
11	E	127.4
12	F	136.8
13	G	130.6
14	H	129.3

<乗率テーブル>

区分	乗率
A	8.6%
B	7.5%
C	6.4%

※区分は社C Oの右から
1文字目とする。

<処理条件>

- <出力形式1>のような出来高賃金計算表を作成しなさい。(――の部分空白とする)
- 社員名は<社員テーブル>を表検索しなさい。
- 部品名は<部品テーブル>の部品を表検索し、“部品”の文字を関数または演算子を使用して結合しなさい。
(例 E部品)
- 完成率=完成数÷作業数(％の小数第1位未満切り上げ)
基本賃金=単価×完成数(整数未満切り捨て) ※単価は<部品テーブル>を参照する。
技能手当=基本賃金×26%×完成率(10位未満四捨五入)
- 乗率は<乗率テーブル>を参照し、求めなさい。(％の小数第1位までの表示とする)
特別手当=基本賃金×乗率(整数未満切り上げ)
支給額=基本賃金+技能手当+特別手当
- 合計を求めなさい。
- <出力形式1>と同じ形式で、作業数が640以上で支給額が12万未満を抽出しなさい。
表題は“出来高賃金計算表(作業数640以上・支給額12万円未満)”とし、社C Oの昇順で支給額の降順にソートしなさい。
- 出来高賃金計算表を基に<出力形式2>のような処理をしなさい。
- 出来高賃金計算表を基に<出力形式3>のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- <出力形式2>の技能手当・特別手当を社員名別の積み上げ縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“社員別の集計グラフ”とし、凡例は“技能手当”、“特別手当”とする。

<出力形式1>

出 来 高 賃 金 計 算 表

社C O	社員名	部C O	部品名	作業数	完成数	完成率	基本賃金	技能手当	乗率	特別手当	支給額
(途 中 省 略)											
――	合 計	――	――			――			――		

<出力形式2>

社員別集計表

社員名	基本賃金	技能手当	特別手当
加藤 直美			
中村 勇樹			
大西 愛子			
久保田 哲			

<出力形式3>

技能手当が20,000円以上の特別手当の合計	
作業数が640以上で完成率が94.0%未満の件数	
部品名がF部品以外で完成数が590未満の支給額の平均	

第137回（令和6年7月）
情報処理技能検定試験（表計算）
初段 問題

試験時間	30分
------	-----

1. <入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成しなさい。
2. 表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
3. <出力形式>に「合計」「平均」などがある場合は、関数により処理を行うこと。ただし「——」部分は空白とする。
4. 表には罫線を引くこと。（罫線の太線と細線は区別する。外枠は太線とする。）
5. 使用したテーブルの表の形式は問わない。
6. [] 内文字はシート名とする。テーブルや作成する表にシート名があるものは、それぞれこのシート名でシートを作成し、処理を行うこと。

（例 <出力形式1> [前期]・[中期]・[後期] →前期、中期、後期の各シートを作成し、それぞれ指示された表を作成する。）
7. 作成したデータは事前に準備したファイル（初段・受験番号・名前）に上書き保存する。

（例：初段101日検太郎）

問 題

<入力データ>（各 2 5 件）※テキストデータは SPS フォルダ内でのデータを使用する。

〔前期〕

依 C O	部 C O	依頼数	完成数
101C	11	412	401
101C	12	350	327
101C	13	359	342
101C	14	413	384
101C	15	383	372

〔後期〕

依 C O	部 C O	依頼数	完成数
101C	11	342	327
101C	12	356	332
101C	13	350	335
101C	14	413	392
101C	15	418	395

<部品テーブル>〔テーブル〕

部 C O	部品名	加工賃単価
11	部品 D	408. 7
12	部品 E	389. 3
13	部品 F	358. 4
14	部品 G	431. 6
15	部品 H	462. 8

105A	11	372	358
105A	12	369	354
105A	13	353	331
105A	14	365	340
105A	15	381	370

105A	11	399	377
105A	12	370	359
105A	13	307	285
105A	14	290	278
105A	15	408	381

<依頼先テーブル>〔テーブル〕

依 C O	依頼先名	前月完成数
101C	アキヤマ	3, 614
102A	MA 精密	4, 098
103C	共進電機	3, 527
104B	中川金属	3, 764
105A	山田製作	3, 319

<乗率テーブル>〔テーブル〕

区分	奨励金乗率	運送費乗率
A	9. 8%	5. 7%
B	8. 5%	5. 2%
C	9. 3%	4. 7%

※区分は依 C O の右から 1 文字目。

<処理条件>

1. <入力データ>（テキストデータ、日本語シフト J I S、C S V 形式）、<部品テーブル>を使用し、<出力形式 1 > のような表をそれぞれのシートに作成。

<出力形式 1 >〔前期〕・〔後期〕

依 C O	部 C O	依頼数	完成数	完成率	加工賃
（ 途 中 省 略 ）					

- 1) 完成率 = $\frac{\text{完成数}}{\text{依頼数}}$ (% の小数第 1 位未満切り上げ)
- 2) 加工賃 = 加工賃単価 × 完成数 × 完成率 (整数未満切り上げ)

2. <出力形式 1 >、<部品テーブル>を基に、<出力形式 2 > のような表を作成。

<出力形式 2 >〔計算表〕

部品別総括表

部 C O	部品名	依頼数	完成数	加工賃	完成指数	判定
（ 途 中 省 略 ）						
—	合 計				—	—

- 1) 部品名は<部品テーブル>を表検索。
- 2) 依頼数、完成数、加工賃は、前期シートの各項目の集計+後期シートの各項目の集計。
- 3) 完成指数 = $\frac{\text{完成数}}{\text{依頼数}} \times 100$ (小数第 1 位未満切り捨て)
- 4) 完成指数が 95. 0 以上で加工賃が加工賃の平均以上の場合、“良好” の判定をする。
- 5) 完成数の昇順に並べ替え。

3. <出力形式1>、<依頼先テーブル>、<乗率テーブル>を基に、<出力形式3>のような表を作成。

<出力形式3> [計算表]

依頼先別支払額計算表											
依C O	依頼先名	完成数		加工賃		総加工賃	奨励金	運送費	支払額	前月比	評価
		前期	後期	前期	後期						
(途 中 省 略)											
—	合 計									—	—

- 1) 依頼先名は<依頼先テーブル>を表検索。
- 2) 完成数・加工賃の各前期・後期は、基表の同項目の値を集計。
- 3) 総加工賃＝加工賃の前期＋加工賃の後期
- 4) 奨励金＝総加工賃×奨励金乗率（100 位未満切り捨て）
- 5) 運送費＝総加工賃×運送費乗率（10 位未満切り上げ）
- 6) 支払額＝総加工賃＋奨励金＋運送費
- 7) 前月比＝ $\frac{\text{完成数の前期}+\text{完成数の後期}}{\text{前月完成数}}\times 100$ （小数第 1 位未満切り上げ）
- 8) 総加工賃が 150 万以上または前月比が 100.0 以上に“**”、それ以外に“*”の評価をする。

4. <出力形式2>を基にグラフを[計算表]シートに作成。

- 1) グラフの種類は、部品名別の完成数を折れ線、加工賃を縦棒にした複合グラフ。
- 2) グラフタイトル、凡例は以下のとおりにする。

